

あのときの常呂・写真館

VOL 162

(1983年)

昭和58年11月26日

常呂町開基百年町民舞台「森と海と湖の中で」上演

▶「広報ところ」11月号では、上演が近づく中、舞台の構成や内容を次のように紹介している添付します。



町民舞台は「開基百年を迎える町民自らの手で芸術・文化の創作

す。
二年前に企画、町内各層の有志により準備を進め、製作から演出、出演まですべて町民による手づくりの「町民舞台」、約四百名が参加し、二万年をさかのぼる常呂の起源から現在、未来をトンコリの演奏やアイヌ舞踊、演劇、合唱などで表現する「ところファンタジー'83町民舞台―森と海と湖の中で」が、十一月二十六日に上演されます。

ところファンタジー '83町民舞台公演せまる

十一月二十六日公演

に取り組み、幅広い参加により心豊かな人間性を創り出す」のがねらい。

この「森と海と湖の中で」は三部二時間半の舞台構成で、第一部古代編「ところの夜明け」は常呂起源から戸長役場のできる明治十六年までの解説で、スライドと語りの途中にはアイヌ舞踊とトンコリの演奏が入ります。

第二部、開拓編「拓けゆく道標」は二幕三場の劇で、常呂川の氾濫を背景とした劇構成。

第三部、現代から未来編「はばたけところ」は、かき島太鼓の勇壮な曲で始まり、幼児の踊り、小・中・高・青年・一般の独唱・合唱、フォークソング・ロック演奏が入り、フィナーレには出演者全員の大合唱となります。

この町民舞台で使われる曲の作詩・作曲も全て町民の手によるものとなっています。

公演は十一月二十六日(土)午後六時、多目的研修センターで。

●このときのことを11月30日の北海道新聞は、「開拓時代の演劇に涙 手づくりの冬眠舞台」という見出し・リードを付け、延べ出演者470人、1000人を超す町民が会場に詰めかけたことを伝えています。

●町民舞台は、この年を第1回として、地域に根づいた歴史的なできごとを題材とした演劇で20年間続きます。毎回、オリジナルの脚本を書き、スタッフ、キャストを募集し、半年くらいの時間をかけて演劇を仕上げていくスタイルを最後まで持ち続けました。

●常呂図書館には第7回までのプログラムやポスターなどを所蔵していますが、ここではその中から第1回と第7回のプログラム表紙を添付して紹介します。



＊上：大道具製作と稽古

＊右：第1部で演奏したカラフトアイヌの楽器「トンコリ」



＊左・次ページ4枚
第2部の演劇「拓
けゆく道標」



* 左：演劇出演者全員の名前入り銘板
(常呂町公民館階段壁に設置)

’83町民舞台 —開基百年記念—

森と海と湖の中で

日時 11月26日(土) 午後6時開演

場所 常呂町民センター

主催 ところ町民舞台実行委員会
常呂町民センター

後援 常呂町開基百年記念実行委員会



第1部 古代編「ところの夜明け」

トンコリ・ムックリをバックに、幼い常呂の姿をスライドを使つての興味深い解説が私達の郷土「常呂」をより一層愛するものにします。

第2部 開拓編「拓けゆく道標」

演劇「常呂川」を通して町を流れる常呂川の氾濫にも掛けず現在の繁栄を礎いてくれた開拓の先人の苦勞をしのびます。

第3部 現代・未来編「はばたけところ」

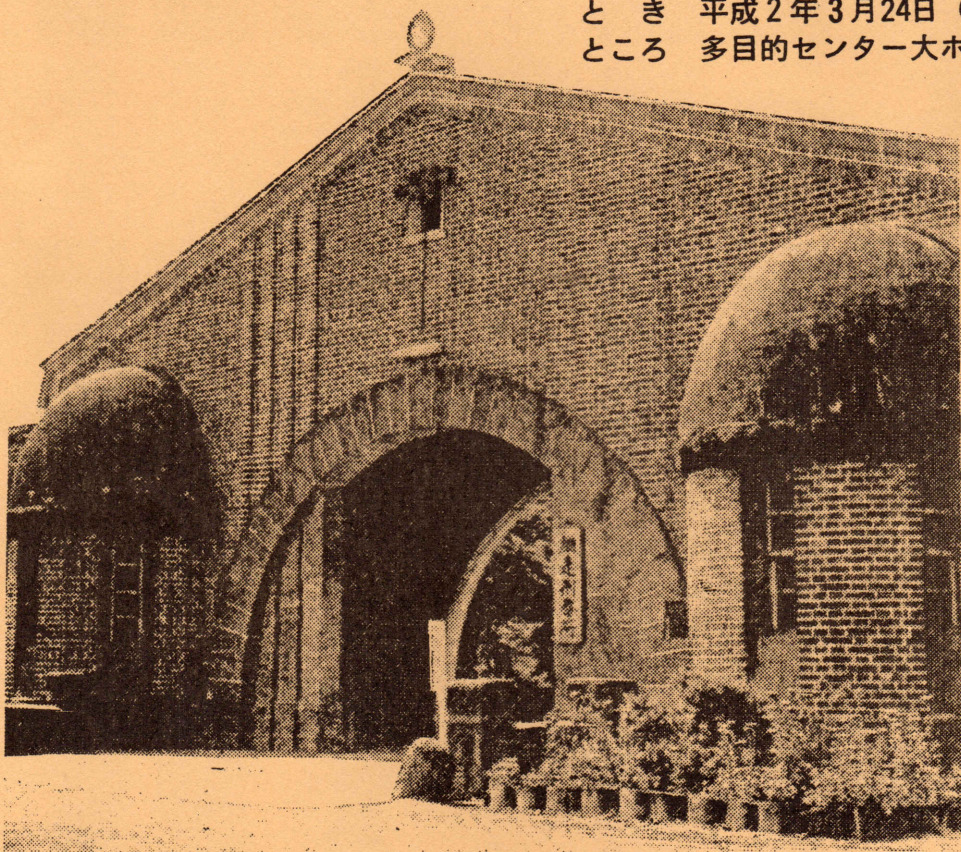
次代を背負う若者が少年少女が現代の世相を語り・歌いそして未来へ向って力強くはばたくのです。

第7回公演

ところ町民舞台

創作劇『囚人の詩』

と き 平成2年3月24日(土)
ところ 多目的センター大ホール



主催 第7回ところ町民舞台実行委員会
後援 常呂町教育委員会
常呂町文化連盟

公演にあたって

第7回ところ町民舞台実行委員長 澤 田 昌 彦

第7回目の公演となりました「囚人の詩」も、一年がかりの作品です。

取材をして、調査をして、ある程度の確信をもってこの作品を創り上げました。

今回もまた、出演者14名中5名が初舞台です。未熟な演劇ですが一生懸命に稽古しましたので観て下さい。

尚、明年度も公演の予定をしていますので、応募して下さい。

平成2年3月24日

今までの足跡

第1回	昭和58年	「常 呂 川」
第2回	〃 60年	「オホーツク本線」
第3回	〃 61年	「鉄 山」
第4回	〃 62年	「海・その愛」
第5回	〃 63年	「流氷の来る街」
第6回	平成元年	「海に生きる」
第7回	〃 2年	「囚人の詩」

第8回募集

スタッフ・キャスト その他で協力できる方なら
どなたでもどうぞ ご参加下さい！

常呂町民センター内 石渡まで
(T54-2191)